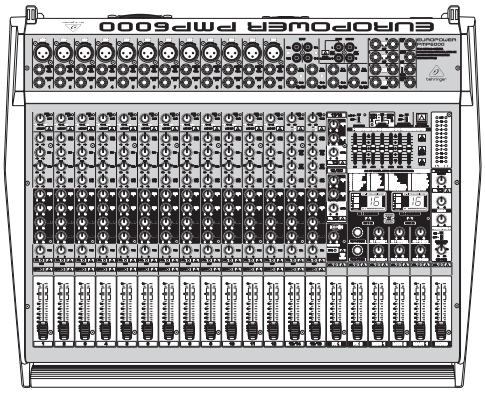
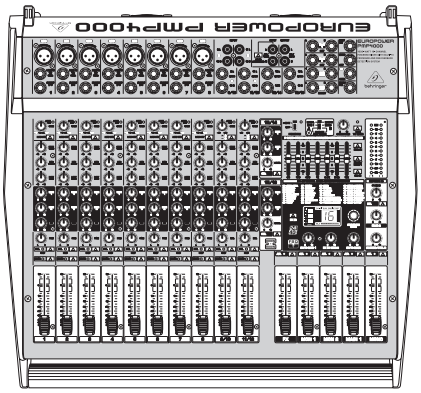
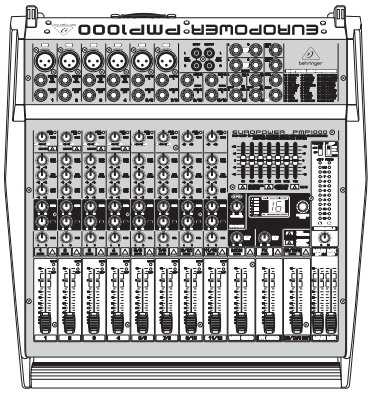
取扱説明書

JP







EUROPOWER

PMP6000

1600-Watt 20-Channel Powered Mixer with Dual Multi-FX Processor and FBQ Feedback Detection System

PMP4000

1600-Watt 16-Channel Powered Mixer with Multi-FX Processor and FBQ Feedback Detection System

PMP1000

500-Watt 12-Channel Powered Mixer with Multi-FX Processor and FBQ Feedback Detection System

V 1.0

behringer

JP

目次

ありがとう **2**
安全にお使いいただくために **3**
法的放棄 **3**
限定保証 **3**
1. 導入 **4**
1.1 ご使用の前に 4
1.2 本取扱説明書について 4
2. 操作部 **8**
2.1 モノ / ステレオチャンネル 8
2.2 EQ と FBQ **10**
2.3 エフェクトセクション 10
2.4 メイン / モニターセクション 11
2.5 リアパネル 12
3. デジタルエフェクトプロセッサー **12**
4. インストール **14**
4.1 電源接続 14
4.2 オーディオ接続 14
4.3 スピーカー接続 15
5. 接続例 **15**
6. 技術仕様 **19**

ありがとう

EUROPOWER のお買い上げ、まことにありがとうございます。これは新たなスタンダードを築く最先端のパワーミキサーです。あらゆるアプリケーションに対応できる革新的な装置の開発が当社の当初からの目標でした。その結果、幾多の性能を備え、幅広い接続環境とオプションを提供するこのパワーミキサーが誕生したのです。

JP 安全にお使いいただくために

注意

感電の.恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル（¼" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル）を使用してください。

注意

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

注意

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

注意

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用の前に良くお読みください。

注意

1. 取扱説明書を通してご覧ください。

2. 取扱説明書を大切に保管してください。

3. 警告に従ってください。

4. 指示に従ってください。

5. 本機を水の近くで使用しないでください。

6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。

7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。

8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ(三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広くなっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地（アース）が確保されていることを確認して下さい。

12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。

17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いただけません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45℃ 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2021 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 musictribe.com/warranty にて詳細をご確認ください。

JP

1. 導入

これによって装置の軽量化とコンパクト化が実現し、最大限の出力が可能となりました。この他にも内蔵されたボイスキャンセラーによって、プレイバックからボーカルパートのみを摘出が可能、**FBQ** フィードバック検知システムは問題となる周波数を即座に抑制、さらにスピーカープロセッシング機能が各スピーカータイプへの見事な適応を実現します。そしてこれらすべてが **24-bit/40 kHz** の高解像で行われるのです。

Behringer は、プロ用のレコーディングスタジオ技術にそのルーツを求める企業です。当社はこれまで長年にわたり、ライブおよびスタジオで使用できる製品の開発に携わってきました。それはマイクや 19 インチ製品 (コンプレッサー、エンハンサー、ノイズゲート、チューブプロセッサー、ヘッドフォンアンプ、デジタルエフェクト機器、DI ボックス等)、モニターおよび PA スピーカー、そしてプロ仕様のライブ / スタジオ用レコーディングミキサーなど多岐にわたります。当社のこれまで培ってきた技術的なノウハウのすべてが、この PMP パワーミキサーに詰め込まれているのです。

1.1 ご使用の前に

1.1.1 出荷

パワーミキサーは運搬に際して細心の注意を払って梱包されています。箱の外側が破損している場合、直ちに装置が破損していないかどうか確認してください。

◊ **装置が万が一破損していた場合は、保証請求権が無効となる恐れがありますので当社に直接返送せずに、必ず販売店および運送会社へご連絡ください。**

◊ **パワーミキサーの使用や運搬を安全に行うために、ハードケースの使用をお勧めします。**

◊ **装置の保管あるいは出荷時は、装置の破損を防ぐために、必ずオリジナルの梱包を使用してください。**

◊ **装置や梱包箱を子供の手の届かない場所に置いて下さい。**

◊ **環境を損なわないように梱包材を廃棄してください。**

1.1.2 操作開始

装置のオーバーヒートを避けるため、装置は風通しの良い場所で使用し、暖房器具の近くには置かないで下さい。

◊ **ヒューズのショートを避けるために、必ず正しい値を持ったヒューズを使用してください。正しい値は「技術仕様」の章をご覧下さい。**

ネットワーク接続は常温装置接続を持つネットワークケーブルで行ってください。上記は必要な安全性の保証に関連しています。

◊ **全ての装置は必ずアースされていなくてはなりません。安全のために、いかなる場合でも装置のアースまたはネットワークケーブルを取り外したり、無効にしないで下さい。**

装置の損傷を避けるために:

- スピーカー出力はアースしないでください。
- スピーカー出力同士を接続しないでください。
- スピーカー出力と別のアンプのスピーカー出力同士を接続しないでください。

電波の強い放送局や高周波音源の範囲内では、音質が減退する可能性があります。その場合は、送信機と機器の距離を離し、すべての接続にシールドケーブルを使用してください。

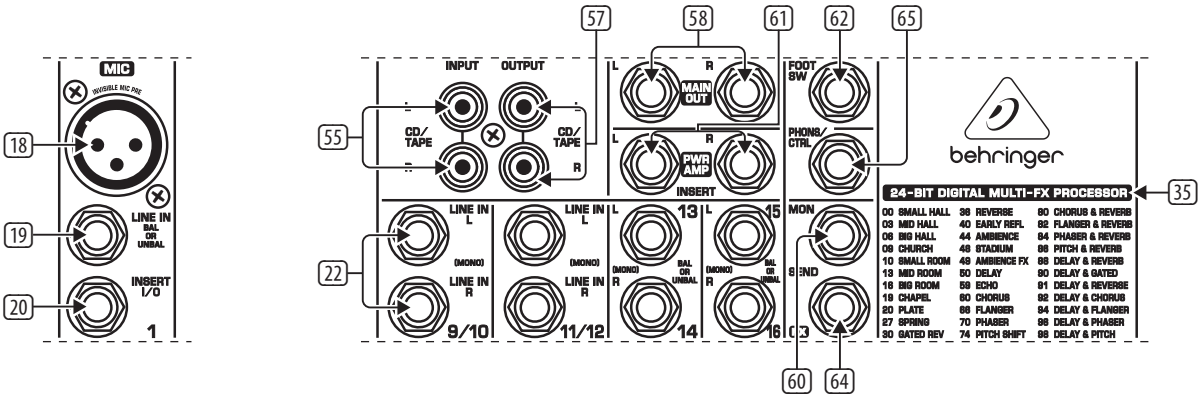
1.2 本取扱説明書について

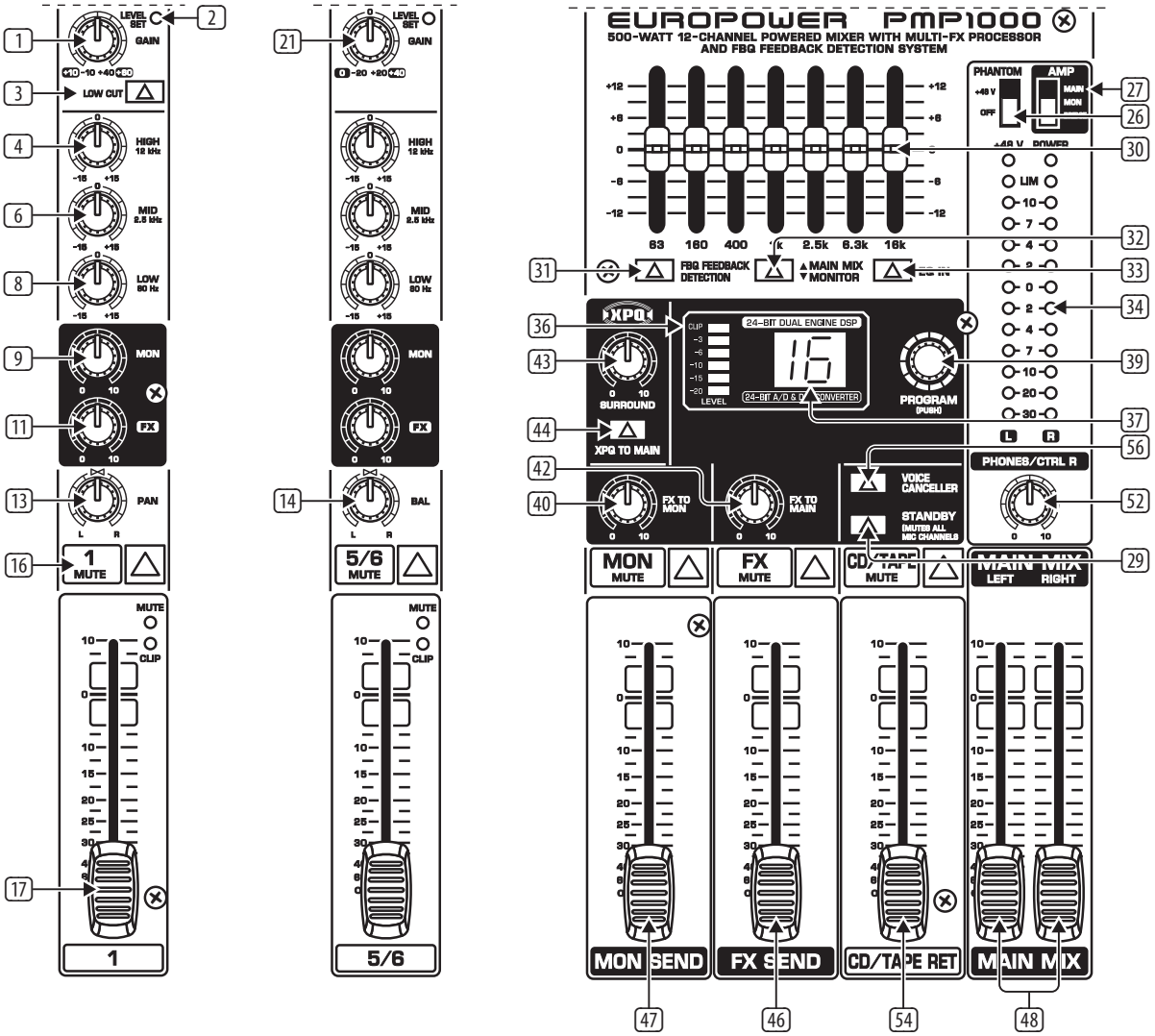
本取扱説明書は、ユーザーの皆さんが操作部全体の機能について理解できるように、そしてそれと同時に、その詳しい使用方法もわかるように構成されています。また、各機能の関連性がすぐにわかるように、本書での説明は機能ごとにまとめられています。付属の図表も同時にご参考ください。特定のテーマに関するさらに詳しい説明が必要な場合には、当社ウェブサイト (behringer.com) をご覧下さい。

ご注意！

◊ **過大な音量は聴覚障害やヘッドフォンおよびスピーカーの故障原因となる恐れがあることにご注意ください。本機に電源を投入する際にはメインマスターおよびメインコントローラーを左端まで回しておいてください。常時、適正な音量維持を心がけてください。**

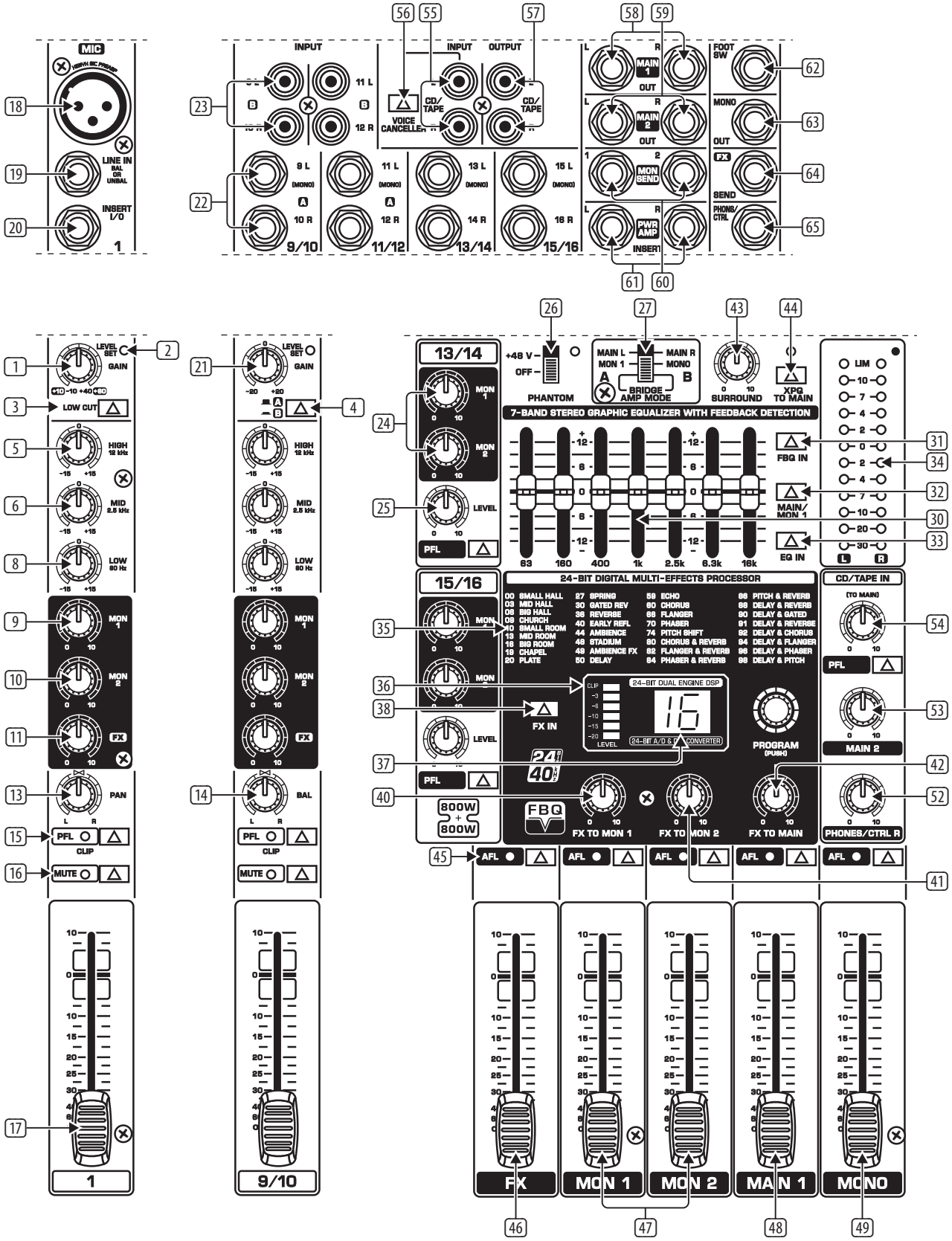
JP





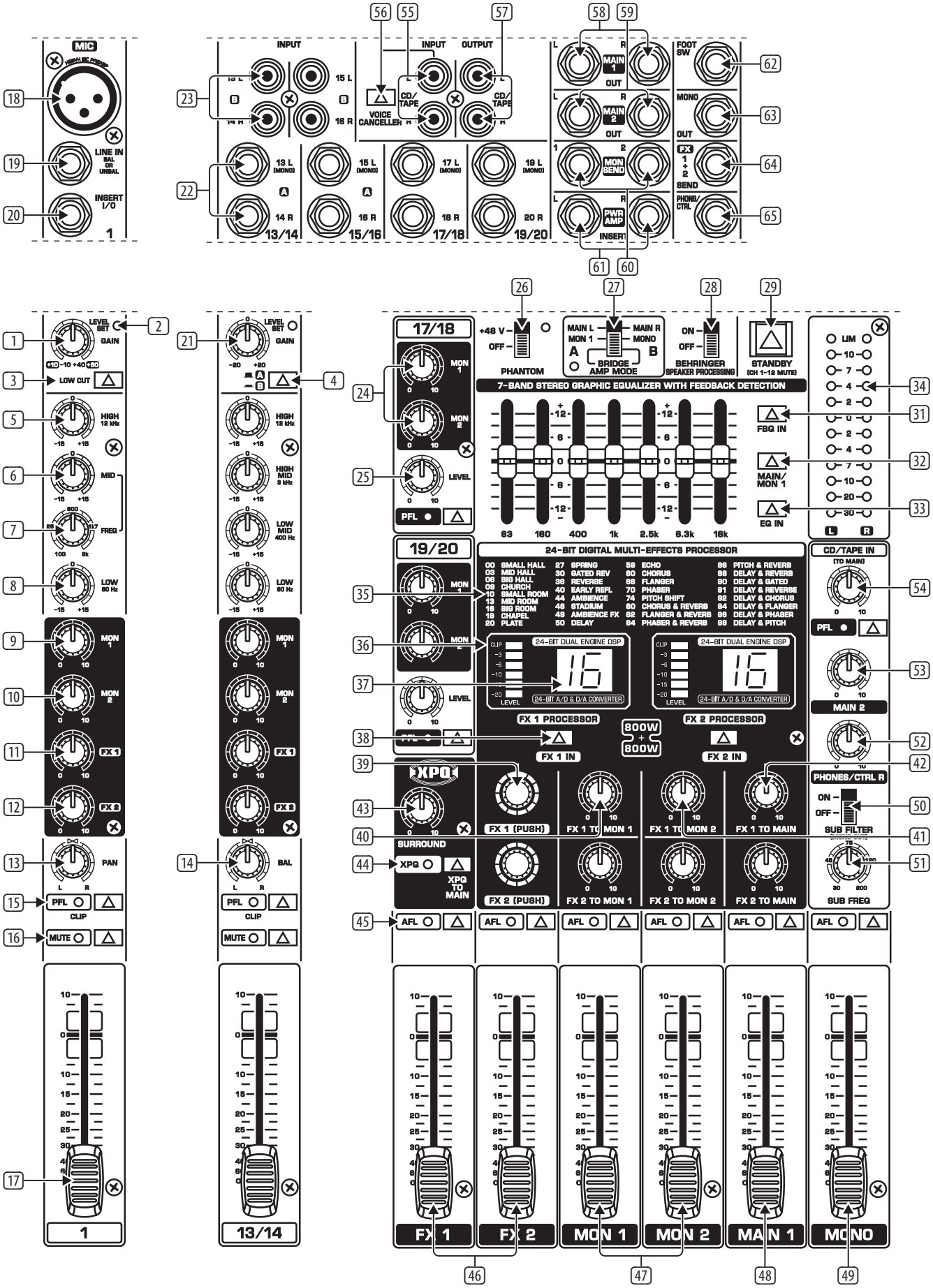
EUROPOWER PMP1000 FRONT PANEL

JP



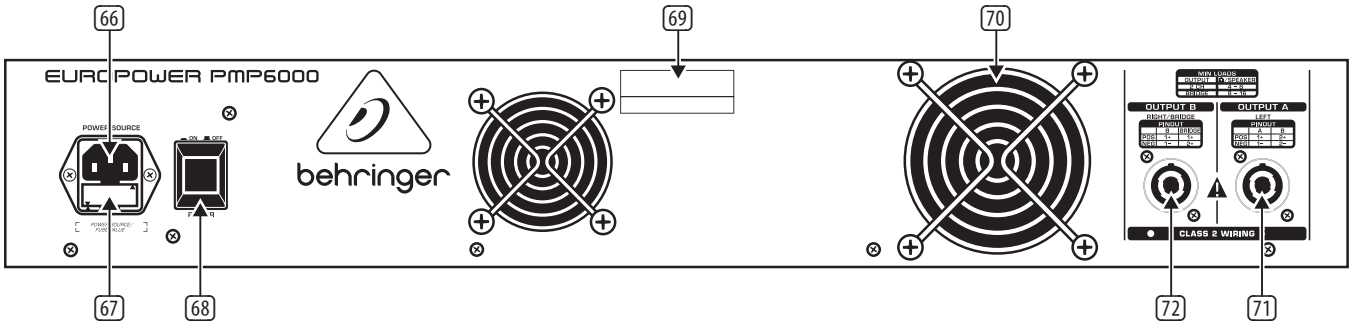
EUROPOWER PMP4000 FRONT PANEL

JP



EUROPOWER PMP6000 FRONT PANEL

JP



EUROPOWER PMP6000 REAR PANEL

2. 操作部

この章では、本パワーミキサーの各コントローラーに関する説明を行っていきます。各コントローラーの機能をより詳しく知ることができるよう付属の図表も同時にご参照ください。

2.1 モノ / ステレオチャンネル

1 GAIN コントローラーは入力ゲインの調節用です。音源を入力端子に接続する前に、このコントローラーが完全に半時計回りに絞りきられていることをご確認ください。GAIN コントローラーはマイク入力および LINE 入力用です。黒で表示された値はマイクのゲインレベルとなります (XENYX 付きのチャンネルでは +10 ~ +60 dB、標準的なマイク入力では 0 ~ +40 dB となります。PMP1000 のみチャンネル 5/6 と 7/8 になります)。

「LINE」で表示された値は、+10 ~ -40 dBu 間の LINE 入力感度を表します。

PMP1000: モノ / ステレオコンビネーションチャンネル 5/6 および 7/8 の感度は、+20 ~ -20 dBu となります。

2 最適な信号レベルに調節されると、この **LEVEL SET** LED が点灯します。

3 モノチャンネルには高傾斜な **LOW CUT** フィルターが備えられています。これによりハムノイズといった不要な低周波信号がカットされます。

4 PMP4000/PMP6000 (ステレオチャンネル): A/B ボタンを押すと 6.3 mm ジャックと RCA ピンプラグが切り替わります。A: 6.3 mm フォンジャック; B: RCA ピンプラグ

5 **EQ** セクションに備えられた **HIGH** コントローラーで該当チャンネルの高周波帯域の調節が行えます。

6 **MID** コントローラーは中音域のブースト / カットに使用します。

7 PMP6000: PMP6000 にはモノチャンネルにおける中音域調節用のセミパラメトリックフィルターが備えられています (100 Hz ~ 8 kHz で調節可)。MID コントローラーでブースト / カットの設定を行い、**FREQ** コントローラーで周波数の調節を行ってください。

ステレオチャンネルにはステレオ **EQ** セクションが備えられています。高 / 低周波数帯域におけるカットオフ周波数はそれぞれ 12 kHz と 80 Hz となっています。ハイミッドおよびハイローのカットオフ周波数はそれぞれ 3 kHz と 400 Hz です。

8 **LOW** コントローラーは低周波帯域のブースト / カット用です。

9 **MON** コントローラーはモニターミックスにおいて各チャンネルの音量調節の際に使用します。

10 PMP4000 と PMP6000 にはセカンドモニターバスの音量調節を行うセカンド MON コントローラー (MON 2) が装備されています。

11 **FX** コントローラーは、各チャンネルから内蔵エフェクトプロセッサーへ送られた信号のレベル調節を行います。この信号は FX SEND 端子でも取り出されます (64 参照)。

12 PMP6000 には 2 つの FX コントローラー (**FX 1** と **FX 2**) が備えられています。これによって 2 つのエフェクトの同時使用が可能となります。したがって、PMP6000 には、ひとつの出力端子で使用可能な 2 つのエフェクト AUX バスが存在します (46 および 64 参照)。

◊ **FX TO MON/MAIN コントローラー 40、41、42 を半時計回りに絞りきると、エフェクトプロセッサー信号は聴こえなくなります。**

13 **PAN**(ORAMA) コントローラーは、ステレオメインミックスにおいてチャンネル信号のポジション決定を行います。

14 ステレオチャンネルにおける **BAL**(ANCE) コントローラーは、モノチャンネルにおける PAN コントローラーと同様の働きをします。このコントローラーは、ステレオメイン出力にルートされる前の左 / 右入力信号の相対音量を調節します。

15 PMP4000/PMP6000: **PFL** ボタン (Pre Fader Listening) を押すと、左の LED 34 がチャンネルのプリフェーダー入力ゲインの値を示します。GAIN コントローラー 1 を使用して最適な入力ゲイン (0 dB) を設定してください。PFL がオンになると、該当 LED が点灯でこれを表示します。

LEVEL SET LED 2 が常時点灯している場合は、信号が最適な操作レベル範囲内にあることを示しています。しかし、CLIP LED が点灯した場合は、入力ゲイン超過となっていますので、GAIN コントローラーを使用してレベルを若干下げてください。CLIP LED はシグナルピークの時以外は点灯させないようにしてください。

16 この **MUTE** スイッチでメインミックスのチャンネルをミュートさせることができます。プリフェーダー信号 (モニターバス) は、そのまま利用可能となります。MUTE スイッチを押すと、該当するコントロール LED が点灯します。

17 チャンネルフェーダーは、メインミックス内のチャンネル信号レベルを調節します。

2.1.1 入力セクション

⑱ 各モノ入力チャンネルには、コンデンサーマイク使用時にボタン一つで +48 V ファンタム電源を起動 させることができるバランス型マイク入力 (XLR コネクター) が備えられています。

PMP1000: ステレオチャンネル 5/6 と 7/8 には、+48 V ファンタム電源を備えたバランス型 XLR マイク入力が装備されています。

◊ **ファンタム電源を入れる前に、オーディオシステムのスイッチを切ることを忘れないでください。スイッチ・オン時に、モニタースピーカーからボンッというノイズが発生してしまいます。**

⑲ 各モノ入力にはバランス型およびアンバランス型で使用可能な **LINE IN** コネクター (6.3 mm フォンジャック) が装備されています。

◊ **特定チャンネルではマイク入力かライン入力のどちらか一方のみを使用し、決して両チャンネルを同時に使用しないで下さい。**

◊ **モノライン信号をステレオチャンネルに接続する際は、常に左側の入力端子を使用してください。これによってモノ信号が両ステレオチャンネルに取り込まれます。**

◊ **これは PMP1000 のモノ / ステレオコンビネーションチャンネル 5/6 および 7/8 には適用されません。**

⑳ **INSERT I/O**. インサート端子は、ダイナミックプロセッサーまたはイコライザーの信号を扱う際に使用されます。このインサート端子はプリフェーダー、プリ EQ およびプリ MON/FX SEND に設定されています。通常はドライ信号に付加されるリバーブやその他のエフェクトとは異なり、ダイナミックプロセッサーは信号全体を処理します。そのため、AUX センドバスを使用するのは最適とはいえません。ダイナミックプロセッサーはシグナルパスに直接接続される必要があります。信号はいったん処理されると、ミキサーの元の場所にリターンされます。これに付随する端子にプラグが接続されている場合のみ、信号は遮断されます (6.3 mm TRS フォンジャック: チップ=シグナル出力、リング=入力)。インサート端子は、すべてのモノ入力チャンネルに装備されています。

㉑ ステレオチャンネルには、ゲイン調節用の **GAIN** コントローラーが備えられています。これによって +20 ~ -20 dB の範囲で入力感度の設定が行えます。

PMP1000: ステレオチャンネル 5/6 および 7/8 には、0 ~ +40 dB の範囲でゲイン設定が可能なマイク接続用の XLR コネクターが装備されています。

㉒ 各ステレオチャンネルには、ラインレベル入力端子 (6.3 mm フォンジャック) が左 / 右チャンネル用に一つずつ備わっています。「L」の表示がある端子のみが使用されている場合、チャンネルはモノとなります。信号は両ステレオサイドにモノ信号として取り込まれます。

◊ **これは PMP1000 のモノ / ステレオコンビネーションチャンネル 5/6 および 7/8 には適用されません。**

◊ **PMP1000: チャンネル 13/14 および 15/16 は、音量などに色づけされることなく、直接メインミックスにルートされます。例えば、チャンネル 13/14 と 15/16 を使用すれば、サブミキサーを接続して PMP1000 パワードミキサーを使用することができるわけです。**

㉓ PMP4000: ステレオチャンネル 9/10 および 11/12 には、RCA ピンプラグが備えられています。

PMP6000: ステレオチャンネル 13/14 および 15/16 には、RCA ピンプラグが備えられています。

◊ **PMP4000/PMP6000: 信号を入力端子に接続する際は、A/B セレクター ④ を A または B に切り替える必要があります。**

㉔ PMP4000/PMP6000: 2 つのステレオチャンネルそれぞれに 2 つのモニターコントローラー (MON 1/2) と LEVEL コントローラー ㉕ が備えられています。他のチャンネル同様、PFL スイッチはここでも利用可能です。

㉕ このチャンネルにはフェーダーの代わりにロータリー **LEVEL** コントローラーが備えられています。

㉖ ファンタム電源は、コンデンサーマイクの作動に必要な電圧を供給します。ファンタムスイッチを使用し、入力チャンネルに備えられた XLR に電源を供給してください。ファンタム電源が作動すると、+48 V LED が点灯します。ダイナミックマイクの使用もバランス接続されている限りは可能となります。詳しくは、マイク製造メーカーまでお問い合わせください。

◊ **ファンタム電源がオンになっている場合は、絶対にマイクをミキサー (もしくはステージ / ウォールボックス) に接続しないでください。ファンタム電源を起動させる際は、モニター / PA スピーカーは必ずミュートしてください。ファンタム電源を起動させた後は、入力ゲインの調節をする前に、システムが完全に起動するまで 1 分ほどお待ちください。**

◊ **警告! ファンタム電源を使用する場合は、アンバランス型の XLR コネクター (ピン 1 とピン 3 は相互接続) をマイク入力端子には絶対に接続しないでください。**

㉗ **AMP MODE** スイッチで、PMP の操作モードを選択します。

PMP1000:

MAIN:「MAIN」の位置に設定すると、ミキサーはステレオアンプとして機能します。

MON: このモードでは、モニター信号は OUTPUT A ㉑ に、メイン信号は OUTPUT B ⑳ に流されます (どちらもモノ信号)。

BRIDGE (ブリッジモノモード): **BRIDGE AMP MODE** においては、OUTPUT A の出力が OUTPUT B のそれに付加され、OUTPUT B 出力から通常の 2 倍の信号が取り出されます。

PMP4000/PMP6000:

MAIN L/MAIN R.「MAIN MIX」に設定すると、ミキサーはステレオアンプとして機能します。

MON 1/MONO. このモードでは、モニター 1 信号は OUTPUT A ㉑ に、メイン信号は OUTPUT B ⑳ に流されます (どちらもモノ信号)。

BRIDGE (ブリッジモノモード): **BRIDGE AMP MODE** においては、OUTPUT A の出力が OUTPUT B のそれに付加され、OUTPUT B 出力から通常の 2 倍の信号が取り出されます。

◊ **ブリッジモードでは、インピーダンスが最低 8 W あるスピーカーを OUTPUT B に接続してください。OUTPUT A はブリッジモードでは絶対に使用しないで下さい!**

◊ **その他の操作モードの際に接続するスピーカーのインピーダンスは 4 W 以上のものを使用してください。**

JP

◊ **BRIDGE AMP MODE において OUTPUT B に接続されたスピーカーに送られる出力は、パラレルスピーカー出力使用時と比べると、非常に高くなりますのでご注意ください。パワーミキサーのリアパネルに記載された値にご注意ください。**

◊ **スピーカー接続の際の極性に関する情報は、装置のリアパネル部に記載されています (ピンアサイン) (71 および 72 も参照 ください)。**

28 PMP6000: Behringer SPEAKER PROCESSING スイッチを押してフィルターを起動させると、ミキサーをスピーカーの特性に適応させることができます。スピーカーの低音域における周波数レスポンスが制限されている場合、この機能はミキサーの出力信号における該当周波数をカットします。これによってスピーカーの周波数レスポンスに最適な適応が可能となります。

29 PMP1000/PMP6000: **STANDBY** スイッチを押すと、すべての入力チャンネルがミュートされます。これによって、休憩時やセットチェンジ時にマイクがノイズを拾い、PA システムに流してしまうことを防ぐことができます。場合によっては、これによってスピーカーのダイアフラムを破壊してしまうこともあります。このスイッチの利点は、CD/TAPE 入力 (55) を使用して CD の音源をプレイバックしている時もフェーダーを調節する必要がないことです。ミュートチャンネルのフェーダーはもちろんそのままの設定で保つことが可能です。

2.2 EQ と FBQ

30 このパワーミキサーにはルーム音響に応じたファインチューニングを可能とする 7 バンドグラフィック EQ が備えられています。「0」の位置に設定すると周波数は一切処理されません。特定周波数帯域のブーストおよびカットは、該当フェーダーを上下させることで行うことができます。

◊ **イコライザーの動きは AMP MODE スイッチの位置によって変化します (27 参照)。**

31 **FBQ IN** スイッチを押すと、FBQ フィードバック検知システムが起動します (FBQ はイコライザー 33 を事前にオンにした場合のみ起動します)。フィードバックを起こす周波数のフェーダー LED が明るく点灯しこれを表示します。その他の LED は薄暗します。フィードバックが消えるまで、問題となる周波数帯域のフェーダーを下げてください (LED の点灯が薄暗くなるか、もしくは消滅します)。この機能はメインおよびモニターミックスの両方で使用できます。

PMP1000: **FBQ FEEDBACK DETECTION** スイッチは、PMP4000 および PMP6000 のそれと同じ機能です。

32 **MAIN/MON 1** スイッチでイコライザーをメインまたはモニターミックスのどちらに作用させるかを選択できます。スイッチを押さない場合、ステレオイコライザーはメインミックスのみを、スイッチを押すと、モニターミックスのみを処理します。

PMP1000: **MAIN MIX/MONITOR** スイッチは、PMP4000 および PMP6000 のそれと同じ機能です。

33 イコライザーの起動は **EQ IN** スイッチで行います。EQ が起動するとフェーダー LED が点灯します。

34 メイン信号の出力レベル操作は、この LED ディスプレイを使って行ってください。内部アンプ保護回路が超過信号に反応すると上部の LIM LED が点灯します。

PMP1000: 装置に電源を入れると POWER-LED が点灯します。

◊ **外部信号を PWR AMP INSERT 端子 (61) を介して取り込んでいる場合、この LIM LED と LED ディスプレイは点灯しません。**

FX

2.3 エフェクトセクション

35 すべてのマルチエフェクトプリセットの一覧です。

36 エフェクトモジュールの LED レベルメーターには常に十分なレベルが表示されている必要があります。クリップ LED は信号超過時のみに点灯するようにしてください。これが常に点灯している場合は、エフェクトプロセッサーがオーバーロードしており、歪みの原因となります。

FX SEND フェーダー (PMP1000) および **FX/FX 1/2** フェーダー (PMP4000/PMP6000) は、エフェクトモジュールおよび FX SEND 出力に流されるレベルの調節を行います。

37 エフェクトディスプレイには、現在選択されているプリセットが表示されます。

38 PMP4000/PMP6000: **FX1/2 IN** スイッチを押すとエフェクトプロセッサーが起動します。

39 PMP1000/PMP4000: **PROGRAM** コントローラーを廻すと、エフェクトアルゴリズムの選択が行えます (プリセットナンバーが点滅し始めます)。選択したエフェクトを起動させる場合は、このコントローラーを押してください (PMP6000: **FX 1/2 (PUSH)**)。

◊ **PMP1000: エフェクトプロセッサーは常に操作可能となっています。コントローラー 40 または 42 を使って、MAIN または MON 信号に加えるエフェクトの強度を調節してください。**

PMP6000: PMP6000 には、相互に独立して使用可能な 2 つのエフェクトプロセッサーが内蔵されています。FX 1/2 IN スイッチ 38 で一つもしくは両方のプロセッサーを起動させることができます。

40 PMP4000/PMP6000: **FX 1/2 TO MON 1** コントローラーはモニターミックスにおけるマルチエフェクトプロセッサーの強度を設定します。このコントローラーを半時計回りに廻しきると、モニターミックスにエフェクトは一切かかりません。

PMP1000: **FX TO MON** コントローラーは、PMP4000 および PMP6000 のそれと同じ機能です。

41 **FX 1/2 TO MON 2** コントローラーは、モニター 2 ミックスにおけるエフェクト強度を設定します。このコントローラーを半時計回りに廻しきると、モニター 2 ミックスにエフェクトは一切かかりません。

42 **FX 1/2 TO MAIN** コントローラーは、メインミックスにおけるエフェクトの強度を設定します。このコントローラーを半時計回りに廻しきると、メインミックスにエフェクトは一切かかりません。

PMP1000: **FX TO MAIN** コントローラーは、PMP4000 および PMP6000 のそれと同じ機能です。

2.4 メイン / モニターセクション

43 **SURROUND** コントローラーは、エフェクトの強度を設定します。これはステレオパノラマを拡大し、より透明感のある生き生きとしたサウンドを実現する内蔵エフェクトです。

44 サラウンドエフェクトの起動には XPQ TO MAIN キーを押してください。

45 **AFL** (After-fader listening) スイッチを押すと、ソロ機能が起動します。AFL がメインセクションの該当チャンネルに対して起動している場合は、このチャンネルからのみ信号が聞こえます。音量はフェーダーで調節が可能です。AFL 機能をオンにしても、フェーダーを動かさない限りは、メインまたはモニターミックスにエフェクトは加わりません。これによって、一つまたは複数の信号を PHONES/CTRL 端子 65 を介してモニターすることが可能となります。AFL が起動すると、該当コントローラー LED が点灯します。

◊ **PMP1000 にはこの AFL 機能はついていません。**

46 PMP1000: **FX SEND** フェーダー

PMP4000: **FX** フェーダー

PMP6000: **FX 1/2** フェーダー

これはエフェクトプロセッサーおよび FX SEND 出力 64 にルートされた信号用のマスターセンドフェーダーです (11 および 12 参照)。

47 PMP1000: **MON SEND** フェーダー

PMP4000/PMP6000: **MON1/2** フェーダー

これらのフェーダーは、モニター出力の音量調節用です (9 および 10 参照)。

48 PMP1000: メインミックスではフェーダーを使ってメイン出力で取り出される信号の全体音量を調節することができます。

PMP4000/PMP6000: MAIN 1 フェーダーは、EUROPOWER の全体音量をコントロールします。メイン信号は MAIN 1 出力でも取り出せます (58 参照) 。

49 PMP4000/PMP6000: **MONO** フェーダーは、モノミックス信号をコントロールします (63 参照)。

50 PMP6000: **SUB FILTER** は、選択した設定を超える周波数をカットします。これによって低周波数のみが MONO OUT 63 を介してアクティブスピーカーに流されます。このスイッチをオンにすると、フィルターが起動します。

51 PMP6000: **SUB FREQ** コントローラーは、サブウーハ出力用のカットオフ周波数を設定します。値は 30 ~ 200 Hz 間で調節可能です。

52 **PHONS/CTRL R** コントローラーは、ヘッドフォンもしくはコントロールルームの値を調節します (65 参照) 。

53 PMP4000/PMP6000: **MAIN 2** コントローラーで MAIN 2 出力で取り込まれる信号のボリュームを調節します (59 参照·)。これは MAIN 1 と同じメイン信号となりますが、ここでは出力端子と独立ボリュームコントローラーが装備されています。

54 PMP4000/PMP6000: **CD/TAPE IN** コントローラーは、CD/TAPE INPUT 55 で取り出されるライン信号の音量を調節します。信号のモニターは PFL スイッチを押してください。

PMP1000: **CD/TAPE RET** フェーダーで、CD/TAPE INPUT 55 で取り出されるライン信号の音量を調節します。チャンネルのミュートには CD/TAPE MUTE スイッチを押してください。

2.4.1 接続端子類

55 CD プレーヤーやテープデッキなどラインレベル信号の音源接続には、この CD/TAPE INPUT 端子を (ピンプラグ) を使用してください。

56 **VOICE CANCELLER** は、CD/TAPE INPUT 信号からボーカルパートの周波数帯域をカットします。曲からボーカル部分だけを取り除き、音楽に合わせて自分で歌うカラオケの使用に最適です。

57 **CD/TAPE OUTPUT** には、例えば DAT レコーダー用にパワーミキサーからのラインレベルステレオ信号を流すことができます。

◊ **CD/TAPE OUT 信号がレコーディング機器に接続され、その出力信号が CD/TAPE IN にリターンしている場合、レコーディング機器の録音機能をオンにした際にフィードバックが発生する可能性があります。そのため、レコーディングを開始する前に、レコーディング機器の CD/TAPE IN への接続を切断し、CD/TAPE 入力信号レベルをゼロに設定してください。**

58 PMP1000: **MAIN OUT** 出力を介して、メイン信号を外部アンプに接続することができます。これは装置のミキサー部分やエフェクトセクションのみを使用したい場合にお勧めです。PMP4000 と PMP6000 には 2 つの独立操作可能なラインレベル MAIN 出力 59 が備えられています (**MAIN 1/2**)。

60 モニターパワーアンプまたはアクティブモニタースピーカーを MON 1/2 SEND に接続すると、MON コントローラーで生成されたミックス信号のモニターが行え、これをステージ上のミュージシャンにルートすることが可能となります。

61 PMP シリーズには、様々な用途に使用できる **POWER AMP INSERT** コネクタが装備されています。このコネクタを使用して機器のパワーアンプを接続し、他のプリアンプの出力信号を増幅することができます。用途例として、大きめのミキサーや楽器アンプのプリアンプ出力 (ラインレベル) などの接続があげられます。この用途に使用する際には、最低アンバランス方式の 6.3 mm ジャックケーブル (モノ) を使用します。

さらに、**POWER AMP INSERT** を従来のシリアルループ (インサート) として使用し、例えばコンプレッサーやグラフィカルイコライザーを信号路へ挿入することができます。この際にはバランス式 6.3 mm ジャックケーブル (ステレオ) が必要です。さらに先端およびリングは図 4.5 に従って割り当ててください (4.2 章「オーディオ接続」参照)。この場合、リング端子はいわゆるセンドとして補助機器の入力と接続し、先端端子はいわゆるリターンとして補助機器の出力と接続します。

POWER AMP INSERT では機器ミキサー部の出力信号を取り出すこともでき、補助的な外部パワーアンプの使用を可能としています。この際、リング端子 (先端ではありません) を外部パワーアンプの入力と接続するバランス式 6.3 mm ジャックケーブル (ステレオ) が必要となります。内部パワーアンプと外部パワーアンプを同時に接続する際には、リングと先端のプラグ端子を接続してください。

JP

62 **FOOTSWITCH** 端子には、標準的なフットスイッチが接続できます。これによって「エフェクトバイパス」が可能となり、エフェクトプロセッサーをミュートすることができます。PMP6000 には、FX 1 と FX 2 を交互に独立して切り替えることができるようデュアルフットスイッチを使用してください。この場合、6.3 mm フォンジャックのチップ部分は FX 1 を、リング部分は FX 2 をコントロールします。

63 PMP4000/PMP6000: **MONO OUT** 出力にはサブウーハを接続します。PMP6000 ではサブウーハ用の低周波帯域を調節することが可能となっています。周波数の調節には SUB FILTER コントローラー 51 を使用します。

64 **FX SEND** コネクターは、入力チャンネルからの FX SEND 信号を、例えば外部エフェクト装置の入力端子にルートする際などに使用します。PMP6000 には各入力信号ごとに 2 つの FX コントローラーが備わっているため (12 参照)、一つの端子で FX SEND 1 + 2 の両方が取り出せます。

◊ **ご注意ください: SEND 信号は、FX SEND 端子およびエフェクトプロセッサーと並列になっているため、一つのコントローラーで両信号が調節できます。**

◊ **FX 信号は 6.3 mm TRS ステレオフォンジャックを FX 1 をチップへ、FX 2 をリングへ接続して使用してください。**

65 PHONS CTRL コネクターには、ステレオヘッドフォンまたは (アクティブ) モニタースピーカーが接続できます。

2.5 リアパネル

66 電源接続には標準型 IEC ケーブルを使用してください。適切な電源ケーブルは製品に付属されています。

67 ヒューズホルダー / 電圧設定: 装置を電源に接続する前に、電圧の表示が供給電圧と同じであることを確認してください。ヒューズ交換の際には、必ず同じタイプのものを使用してください。詳しい値は「技術仕様」をご参照ください。

68 この **POWER** スイッチで装置に電源を投入します。このスイッチは、装置を主電源につなげるまで「オフ」の状態になっていることをご確認ください。

◊ **ご注意ください: この POWER スイッチを切っただけでは装置の電源が完全に切れたことにはなりませんので、長期間装置を使用しない場合は、主電源からコンセントを抜いて下さい。**

69 **シリアルナンバー**

70 装置用のファンです。

PMP6000 には 2 つのファンがついています。

71 **OUTPUT A (LEFT)** では、選択した操作モード (27 参照) によって左ステレオメイン信号もしくはモニター信号がモノで取り出せます。この出力端子は、ブリッジモノモードでは絶対に使用しないで下さい。

72 **OUTPUT B (RIGHT/BRIDGE)** では、選択した操作モードによって右ステレオメイン信号、メインミックス信号 (モノ)、またはブリッジモノ信号が取り出せます。

◊ **ブリッジモードでは、インピーダンスが最低でも 8 W あるスピーカーを OUTPUT B に接続してください。OUTPUT A はブリッジモードでは絶対に使用しないで下さい！**

◊ **その他の操作モードの際に接続するスピーカーのインピーダンスは 4 W 以上のものを使用してください。**

3. デジタルエフェクトプロセッサー

24-BIT 多重効果プロセッサー

この挿入された作用モードにより高品質の標準作用を提出し、例えば、反響、合唱、テープ位相校正、エコーと様々な組み合わせる役割です。FX コントローラーを使って、信号をエフェクトプロセッサーに送り込むことが出来ます。内蔵エフェクトモジュールの長所は、ケーブル接続が不要な点です。そのため、グラウンドループや不定の信号レベルに悩まされる必要は一切ありません。各チャンネルや Aux センド 2 マスターコントローラー内の Aux センド 2 を使用しエフェクトプロセッサーへ信号を送ることができます。このデジタル・ステレオ・エフェクトプロセッサーは内蔵型となっており、結線の必要がありません。このため、ハムノイズやレベル相違などの問題を防ぎ、操作が大変楽になります。このエフェクトプリセットは、ドライ信号に加えるためのものです。

◊ **処理したくない全ての信号用にチャンネル動向において FX 増幅器を回してください。**

JP

Effect Presets of EUROPOWER PMP6000

No.	EFFECT	Description	No.	EFFECT	Description
	HALL 00-09			DELAY 50-59	
00	SMALL HALL 1	approx. 1.0s reverb decay	50	SHORT DELAY 1	Like a short shattering
01	SMALL HALL 2	approx. 1.2s reverb decay	51	SHORT DELAY 2	1-2 short impulse(s)
02	SMALL HALL 3	approx. 1.5s reverb decay	52	SHORT DELAY 3	1-2 short impulse(s)
03	MID HALL 1	approx. 1.8s reverb decay	53	MID DELAY 1	Classical Delay for up-tempo music (115-125 BPM)
04	MID HALL 2	approx. 2.0s reverb decay	54	MID DELAY 2	Classical Delay for mid-tempo music (105-115 BPM)
05	MID HALL 3	approx. 2.5s reverb decay	55	MID DELAY 3	Classical Delay for slow-tempo music (95-105 BPM)
06	BIG HALL 1	approx. 2.8s reverb decay	56	LONG DELAY 1	Classical Delay for reggae-tempo music (85-95 BPM)
07	BIG HALL 2	approx. 3.2s reverb decay	57	LONG DELAY 2	Classical Delay for dub-tempo music (75-85 BPM)
08	BIG HALL 3	approx. 4s reverb decay	58	LONG DELAY 3	Extra long (nearly infinite) delay effect
09	CHURCH	approx. 7s reverb decay	59	LONG ECHO	Extra long canyon echo effect
	ROOM 10-19			CHORUS 60-69	
10	SMALL ROOM 1	approx. 0.5s reverb decay	60	SOFT CHORUS 1	Unobtrusive effect
11	SMALL ROOM 2	approx. 0.8s reverb decay	61	SOFT CHORUS 2	Unobtrusive effect with different color
12	SMALL ROOM 3	approx. 1.0s reverb decay	62	WARM CHORUS 1	Analog sounding
13	MID ROOM 1	approx. 1.2s reverb decay	63	WARM CHORUS 2	Analog sounding with different color
14	MID ROOM 2	approx. 1.5s reverb decay	64	PHAT CHORUS 1	Pronounced chorus effect
15	MID ROOM 3	approx. 1.8s reverb decay	65	PHAT CHORUS 2	Pronounced chorus effect with different color
16	BIG ROOM 1	approx. 2.0s reverb decay	66	CLASSIC FLANGER	Standard flanger effect
17	BIG ROOM 2	approx. 2.2s reverb decay	67	WARM FLANGER	More analog touch
18	BIG ROOM 3	approx. 2.5s reverb decay	68	DEEP FLANGER	Deep modulation impression
19	CHAPEL	approx. 3s reverb decay	69	HEAVY FLANGER	Extremely pronounced effect
	PLATE 20-29			PHASE/PITCH 70-79	
20	SHORT PLATE	approx. 1.0s reverb decay	70	CLASSIC PHASER	Standard phaser effect
21	MID PLATE	approx. 1.5s reverb decay	71	WARM PHASER	More analog touch
22	LONG PLATE	approx. 2.2s reverb decay	72	DEEP PHASER	Deep modulation impression
23	VOCAL PLATE	approx. 1.2s reverb decay	73	HEAVY PHASER	Extreme strong effect
24	DRUMS PLATE	approx. 1.0s reverb decay	74	PITCH SHIFT DETUNE	2-3-times detune for a wider solo voice sound
25	GOLD PLATE 1	approx. 1.2s reverb decay	75	PITCH SHIFT +3	Minor third added voice
26	GOLD PLATE 2	approx. 2.0s reverb decay	76	PITCH SHIFT +4	Major third added voice
27	SHORT SPRING	approx. 1.0s reverb decay	77	PITCH SHIFT +7	Quint above added voice
28	MID SPRING	approx. 2.0s reverb decay	78	PITCH SHIFT -5	Fourth down added voice
29	LONG SPRING	approx. 2.5s reverb decay	79	PITCH SHIFT -12	1 octave down added voice
	GATED/REVERSE 30-39			MULTI 1 80-89	
30	GATED REV SHORT	approx. 0.8s gate time	80	CHORUS + REVERB 1	Soft chorus + medium-short reverb
31	GATED REV MID	approx. 1.2s gate time	81	CHORUS + REVERB 2	Deep chorus + medium-long reverb
32	GATED REV LONG	approx. 2.0s gate time	82	FLANGER + REVERB 1	Soft flanger + medium-short reverb
33	GATED REV XXL	approx. 3.0s gate time	83	FLANGER + REVERB 2	Deep flanger + medium-long reverb
34	GATED REV DRUMS 1	approx. 0.8s gate time	84	PHASER + REVERB 1	Soft phaser + medium-short reverb
35	GATED REV DRUMS 2	approx. 1.2s gate time	85	PHASER + REVERB 2	Deep phaser + medium-long reverb
36	REVERSE SHORT	approx. 0.8s reverb raise	86	PITCH + REVERB 1	Soft voice detuning + medium-short reverb
37	REVERSE MID	approx. 1.2s reverb raise	87	PITCH + REVERB 2	Fourth above interval + medium-long reverb
38	REVERSE LONG	approx. 2.0s reverb raise	88	DELAY + REVERB 1	Short delay + medium-short reverb
39	REVERSE XXL	approx. 3.0s reverb raise	89	DELAY + REVERB 2	Medium-long delay + medium-long reverb
	EARLY REFLECTIONS 40-49			MULTI 2 90-99	
40	EARLY REFLECTION 1	Short	90	DELAY + GATED REV	Short delay + medium-long gated reverb
41	EARLY REFLECTION 2	Medium-short	91	DELAY + REVERSE	Medium-short delay + medium-long reverse reverb
42	EARLY REFLECTION 3	Medium-long	92	DELAY + CHORUS 1	Short delay + soft chorus
43	EARLY REFLECTION 4	Long	93	DELAY + CHORUS 2	Medium-long delay + deep chorus
44	SHORT AMBIENCE	Short	94	DELAY + FLANGER 1	Short delay + soft flanger
45	MID AMBIENCE	Medium-short	95	DELAY + FLANGER 2	Medium-long delay + deep flanger
46	LIVE AMBIENCE	Medium-short	96	DELAY + PHASER 1	Short delay + soft phaser
47	BIG AMBIENCE	Medium-long	97	DELAY + PHASER 2	Medium-long delay + deep phaser
48	STADIUM	Long	98	DELAY + PITCH 1	Short delay + fourth down interval
49	GHOST AMBIENCE	Extra-long special FX	99	DELAY + PITCH 2	Medium-long delay + minor third above interval

JP

4. インストール

4.1 電源接続

ヒューズ交換の際は、必ず同じタイプのものと交換してください。

電源接続には、製品に同封されている電源コードと標準 IEC ケーブルを使用してください。このケーブルは国際安全基準をすべて満たしています。

◊ **すべての装置に正しくアースが施されていることをご確認ください。安全のために、装置や電源コードからアース線は決して取り外さないでください。**

4.2 オーディオ接続

Behringer EUROPOWER の入 / 出力端子は、6.3 mm アンバランス型 TS モノラルフォンプラグ仕様となっています。モノチャンネルライン入力は 6.3 mm TRS フォンジャックとなっています。すべての入 / 出力端子はバランス型としてもアンバランス型としても機能します。テープ入 / 出力は、ステレオ RCA ピンプラグ仕様となっています。

◊ **PMP の設置は、必ず専門家が行うようにしてください。設置および操作の際には、本装置を完全な状態で作動させ、静電気の放電などによる悪影響を防ぐため、作業者の設置を十分に確保してください。**

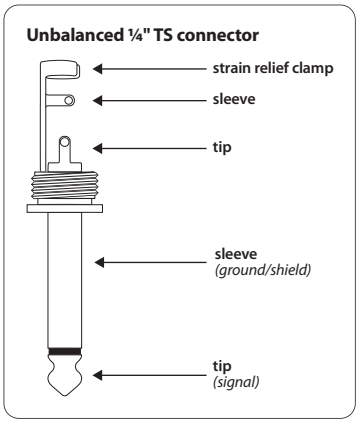


図 4.1: 6.3 mm TS モノラルフォンプラグ

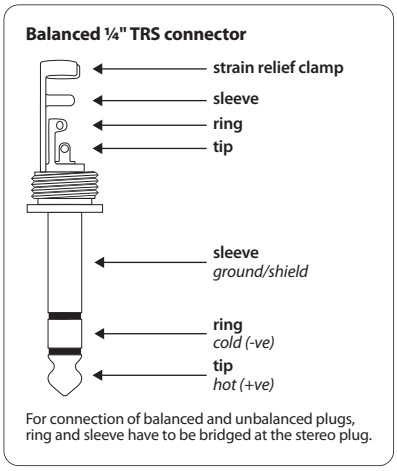


図 4.2: 6.3 mm TRS ステレオフォンジャック

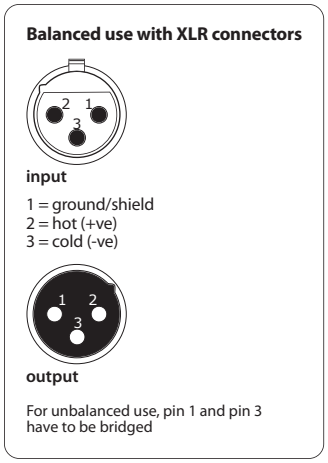


図 4.3: XLR 接続

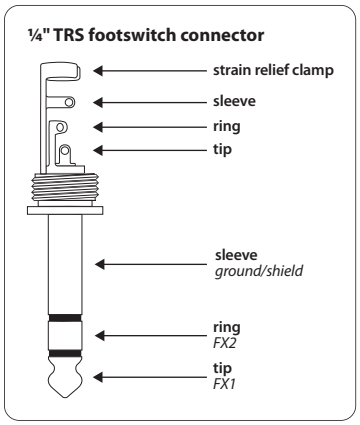


図 4.4: フットスイッチ用モノラルフォンプラグ

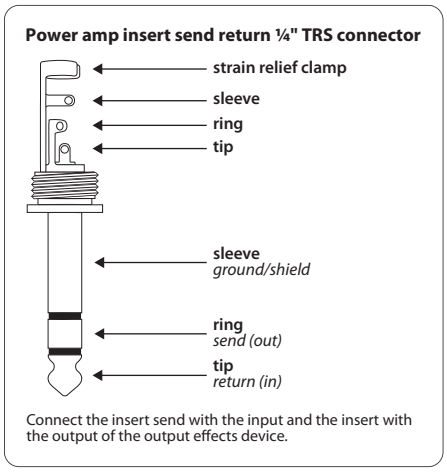


図 4.5: パワーアンプ ISR 接続用 6.3 mm TRS ステレオフォンジャック

JP

4.3 スピーカー接続

EUROPOWER ミキサーには、高品質の対応コネクターが備えられています。プラグはより高い機能を持ったラウドスピーカー用に特別に開発されました。依存するソケットに差し込まれ、これに鍵がかけられ、うっかりと失われることはありません。電気ショックから守り、正極が保証されます。各コネクターは表示されたひとつの信号のみを導きます (表 4.1 / 図 4.6 及び装置の裏面に書かれている太字を参照)。

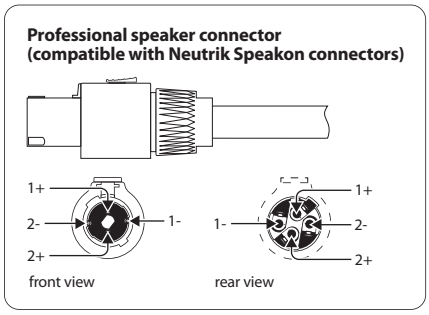


図 4.6: プロフェッショナルコネクター

ラウドスピーカーを EUROPOWER ミキサーに接続するために、商習慣上の ケーブルのみを使用してください。使用する装置のラウドスピーカーアウトレットに依存するラウドスピーカーボックスとケーブルのピン敷き詰めを確認してください。

EUROPOWER PMP6000/PMP4000/PMP1000				
OUTPUT A	1+	1-	2+	2-
MAIN L	x	x		
MONITOR	x	x		
MONO	x	x		
OUTPUT B			x	x
OUTPUT B	1+	1-	2+	2-
MAIN R	x	x		
MONO	x	x		
MONO	x	x		
BRIDGE	x		x	

図 4.1: スピーカー接続のピン配列

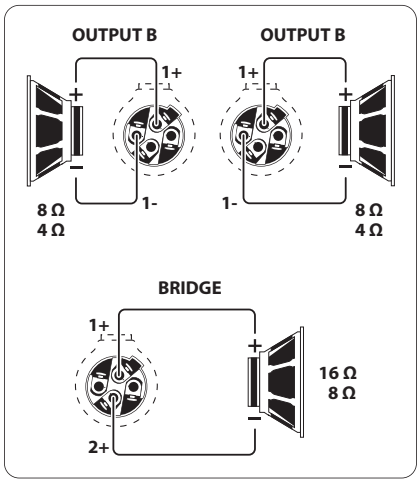


図 4.7: コネクターのピンアサイン

5. 接続例

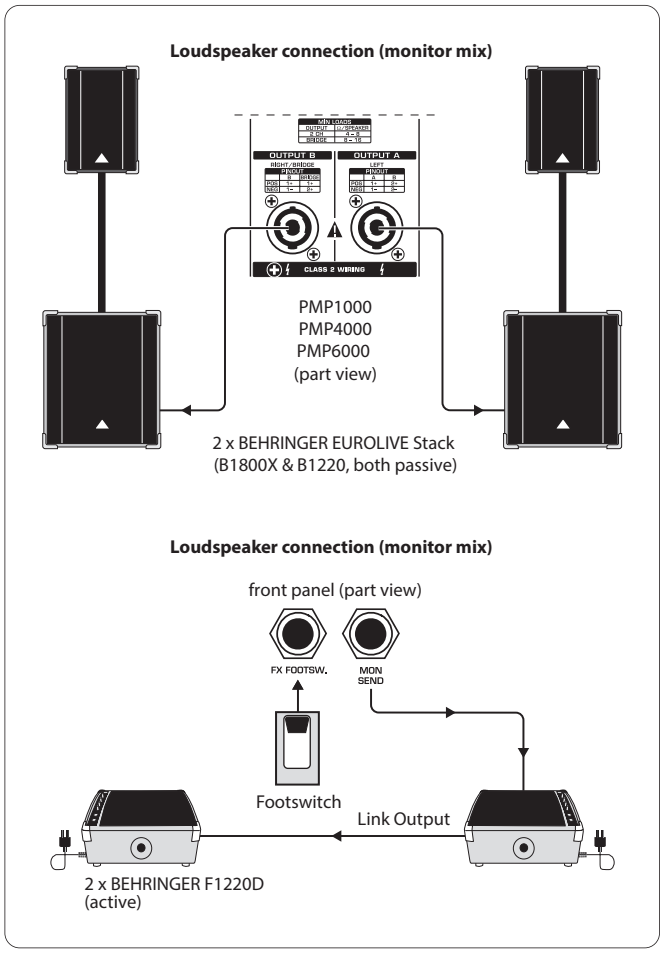


図 5.1: ステレオアンプとしての EUROPOWER ミキサー使用例

上の使用例では、パワーミキサーの AMP MODE セレクタースイッチ 27 を上部の位置 (MAIN もしくは MAIN L/MAIN R) に設定してください。出力端子 A と B はステレオメイン信号をパッシブスピーカーに送り込みます。パラレル接続された 2 台のアクティブスピーカーは、プリアンプモニター出力に接続されます。これらはステージ上のモニタースピーカーとして使用することができます。エフェクトプロセッサーの起動 / 解除ははにはフットスイッチを使用してください。

JP

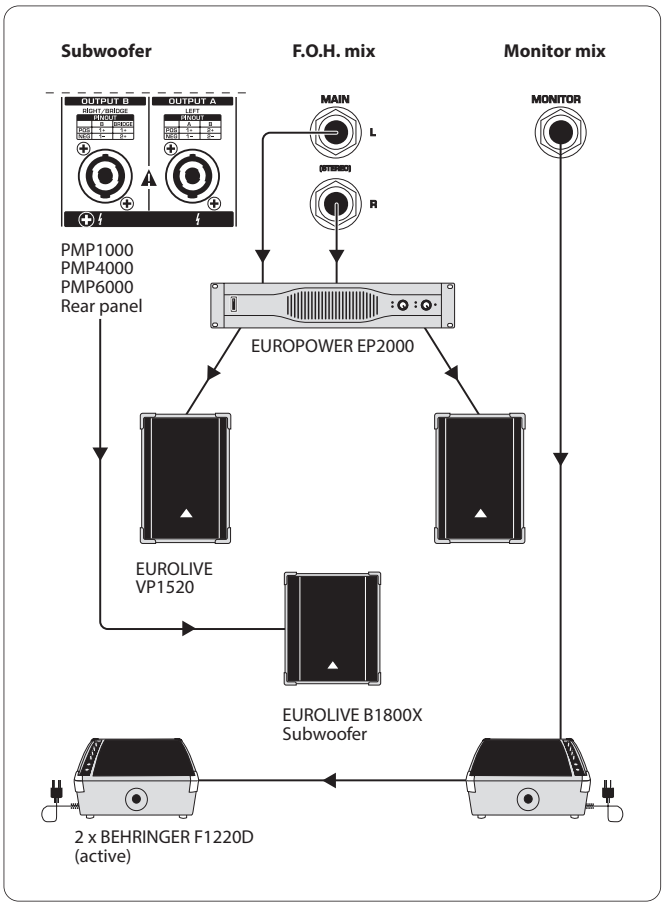


図 5.2: ブリッジモノ操作

この使用例では、サブウーハをパワーミキサーの OUTPUT B に接続しています。OUTPUT B へのブリッジモノ操作を行う場合は、AMP MODE セレクタースイッチ 27 を下の位置 (BRIDGE) に切り替える必要があります。プリアンプのメイン出力にはステレオパワーアンプ (Behringer EUROPOWER EP2000) が接続され、ステレオメイン信号の増幅を行います。オンステージで使用する 2 台のアクティブモニタースピーカーは、プリアンプモニター出力と接続します。

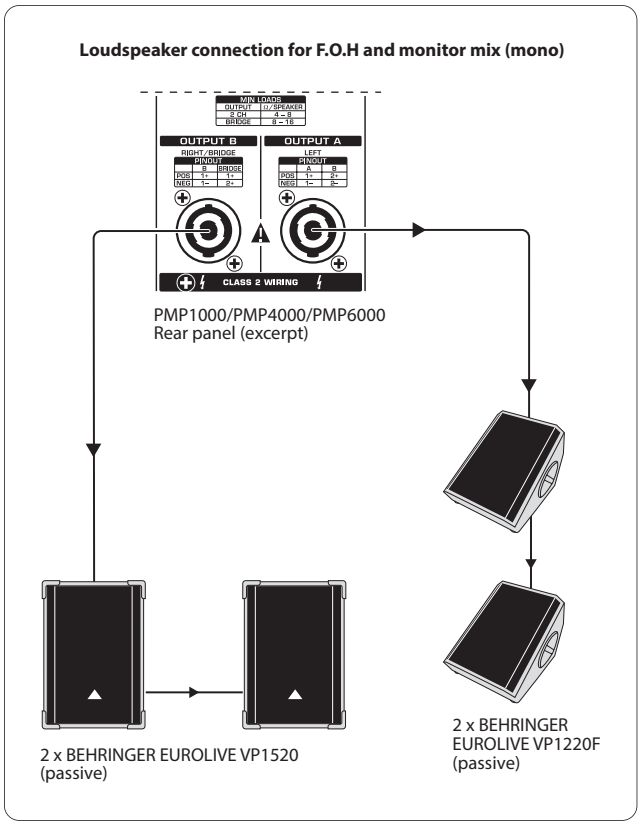


図 5.3: デュアルモノ操作における EUROPOWER ミキサー使用例

デュアルモノ操作の際は、AMP MODE セレクタースイッチ 27 を中間位置に設定してください (PMP4000 および PMP6000 では MON 1/MONO、PMP1000 では MON となります)。2 つの 出力は、それぞれメイン信号とモニター信号を独立して取り出します。各信号はその後パラレル接続された 2 台のスピーカーに送り込まれます。

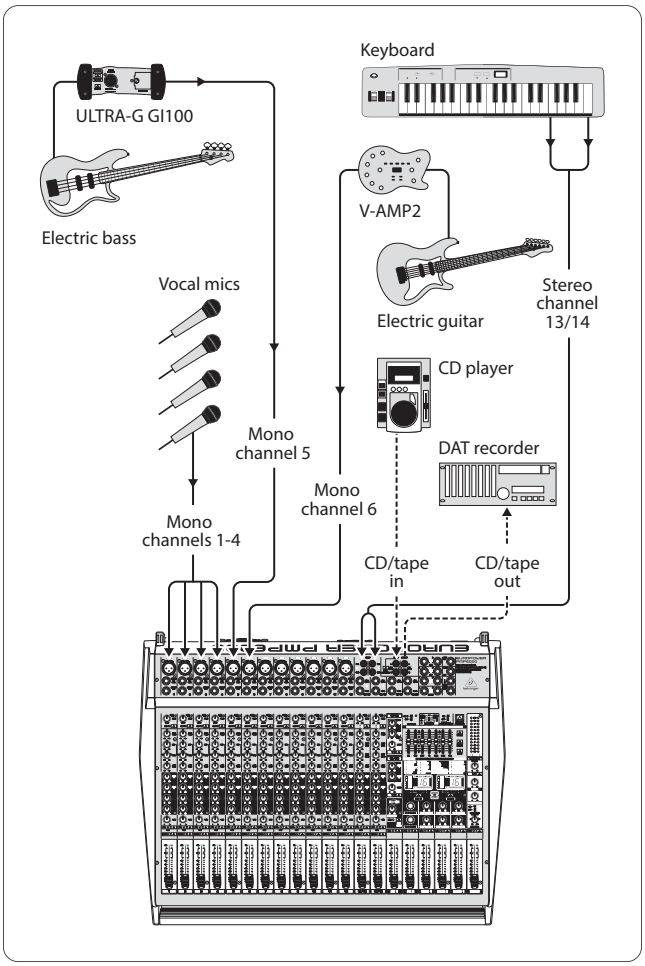


図 5.4: 標準セットアップ例

この図は、可能となるひとつのチャンネルコンフィグレーション例を示しています。モノおよびステレオ接続に加え、ミックス信号のレコーディング用またはプレイバック用にテープ入 / 出力を使用しています。

JP

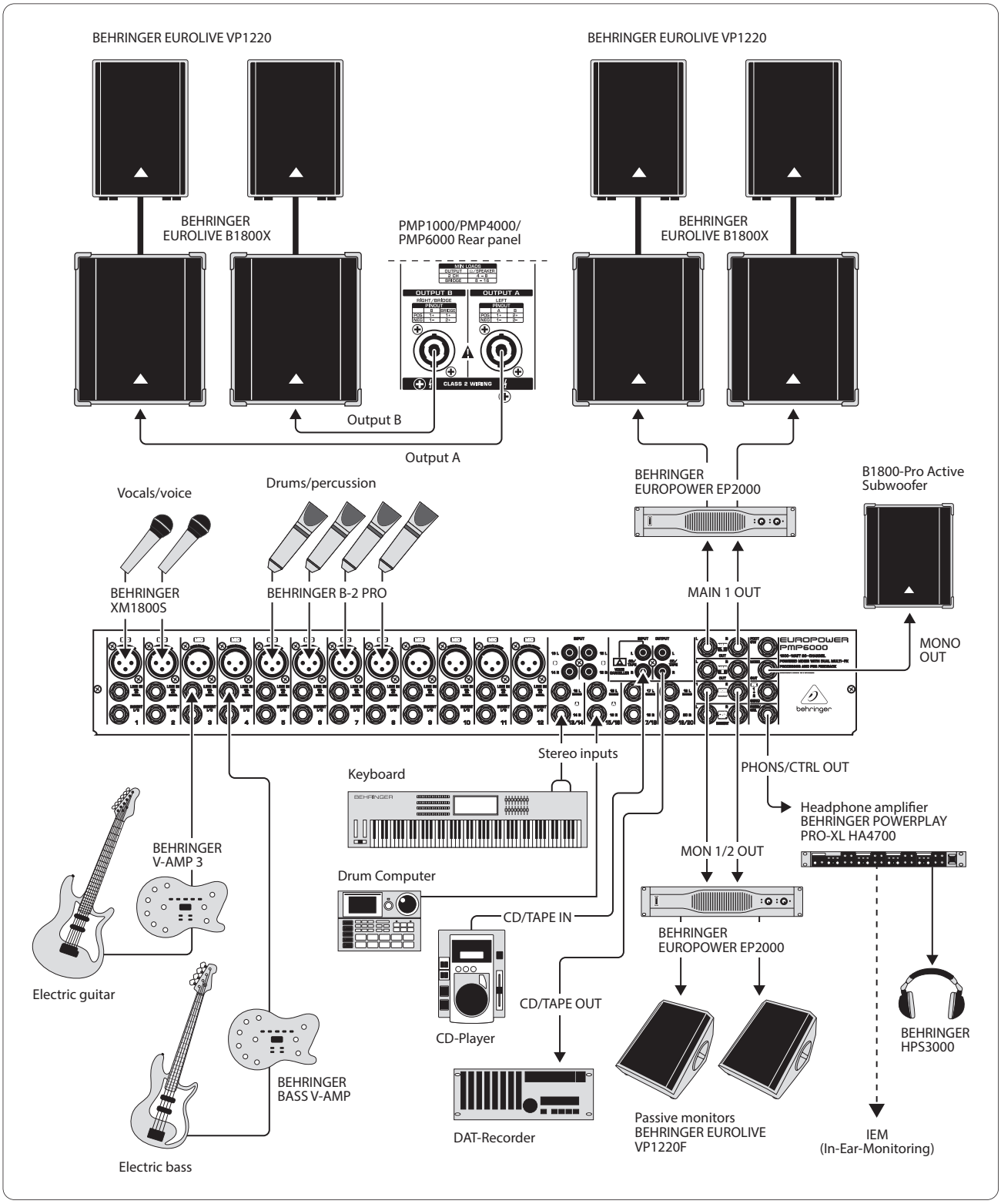


図 5.5: 拡張セットアップ

この使用例は、図 5.4 でみた標準セットアップをより拡張させたものです。より幅広い接続オプションが使用できます。しかし、これはあくまでも接続例に過ぎません。より多様性のある接続も可能となります。

JP

6. 技術仕様

PMP6000

マイクロフォン入力

タイプ	XLR, 電気的にバランスの入力回路
Mic E.I.N. (20 Hz - 20 kHz)	
@ 0 オームソース抵抗	-134 dB / 136 dB A-weighted
@ 50 オームソース抵抗	-131.5 dB / 134 dB A-weighted
@ 150 オームソース抵抗	-129 dB / 155 dB A-weighted
周波数レスポンス	< 10 Hz - 200 kHz (-1 dB) < 10 Hz - > 200 kHz (-3 dB)
Gain	+10 dB, +60 dB
最大 入力 レベル	+12 dBu @ +10 dB gain
インピーダンス	約 2.6 k オームバランス / 1.3 k オームアンバランス
Signal-to-noise ratio	109 dB / 112 dB A-weighted (0 dBu In @ +10 dB ゲイン)
Noise (THD + N)	0.002% / 0.0018% A-weighted

MONO LINE 入力

タイプ	¼" TS コネクター, バランス
インピーダンス	約 20 k オーム
最大入力レベル	+21 dBu

STEREO LINE 入力

タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	> 3.6 k オーム
最大入力レベル	+22 dBu

イコライザー

ロー	80 Hz / ±15 dB
ミッド	100 Hz - 8 kHz / ±15 dB
ハイ	12 kHz / ±15 dB

2 TRACK 入力

タイプ	RCA
インピーダンス	約 3.6 k オーム

プリアンプ出力

MAIN	
タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	約 150 オーム, アンバランス
最大出力レベル	+21 dBu

モニター

タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	約 150 オーム, アンバランス
最大出力レベル	+21 dBu

ステレオ出力

タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	約 150 オーム, アンバランス
最大入力 レベル	+21 dBu
タイプ	RCA
インピーダンス	約 1 k オーム
最大入力レベル	+21 dBu

ラウドスピーカー出力

タイプ	プロフェッショナル・ロック式コネクター
ロードインピーダンス:	
メイン L/R	4 - 8 オーム
モニター / メインモノ	4 - 8 オーム
メインモノ / メインモノ	4 - 8 オーム
ブリッジ	8 - 16 オーム

DSP

コンバーター	24-bit Delta-Sigma, 64/128 - 倍オーバーサンプリング
ダイナミクス D/A	90 dB
サンプルレート	46.875 kHz
ディレイタイム	最大 5 秒
信号伝達時間 (Line 入力 > Line 出力)	約 1.5 ミリ秒

JP

ディスプレイ

タイプ	2 x 2 - デジット, 7-段階 LED

出力パワー

RMS @ 1% THD、両方のチャンネルをドライブ:	
8 オームチャンネル毎	300 W
4 オームチャンネル毎	600 W
RMS @ 1% THD, ブリッジ・モード:	
8 オーム	1200 W
ピークパワー、両方のチャンネルをドライブ:	
8 オームチャンネル毎	400 W
4 オームチャンネル毎	800 W
ピークパワー、ブリッジ・モード:	
8 オーム	1,600 W

電源部

主電圧	
アメリカ合衆国 /カナダ	120 V~, 60 Hz
中国 / 韓国	220 V~, 50/60 Hz
ヨーロッパ / オーストラリア	230 V~, 50 Hz
日本	100 V~, 50 - 60 Hz
ヒューズ 100-120 V~	T 10 A H 250 V
ヒューズ 220-240 V~	T 6.3 A H 250 V

消費電力

消費電力	1,050 W
主電源コネクター	IEC 標準レセプタクル

寸法 / 重量

=寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	4.8 x 19.5 x 23.5" 122 x 496 x 596 mm
重量	28.9 lbs / 13.1 kg

PMP4000

マイクロフォン入力

タイプ	XLR, 電気的にバランスの入力回路
Mic E.I.N. (20 Hz - 20 kHz)	
@ 0 オームソース抵抗	-134 dB / 136 dB A-weighted
@ 50 オームソース抵抗	-131.5 dB / 134 dB A-weighted
@ 150 オームソース抵抗	-129 dB / 155 dB A-weighted
周波数レスポンス	< 10 Hz - 200 kHz (-1 dB) < 10 Hz - > 200 kHz (-3 dB)
Gain	+10 dB, +60 dB
最大 入力 レベル	+12 dBu @ +10 dB gain
インピーダンス	約 2.6 k オームバランス / 1.3 k オームアンバランス
Signal-to-noise ratio	109 dB / 112 dB A-weighted (0 dBu In @ +10 dB ゲイン)
Noise (THD + N)	0.002% / 0.0018% A-weighted

MONO LINE 入力

タイプ	¼" TS コネクター, バランス
インピーダンス	約 20 k オーム
最大入力レベル	+21 dBu

STEREO LINE 入力

タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	> 3.6 k オーム
最大入力レベル	+22 dBu

イコライザー

ロー	80 Hz / ±15 dB
ミッド	2.5 kHz / ±15 dB
ハイ	12 kHz / ±15 dB

2 TRACK 入力

タイプ	RCA
インピーダンス	約 3.6 k オーム

JP

プリアンプ出力

MAIN

タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	約 150 オーム, アンバランス
最大出力レベル	+21 dBu

モニター

タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	約 150 オーム, アンバランス
最大出力レベル	+21 dBu

ステレオ出力

タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	約 150 オーム, アンバランス
最大入力 レベル	+21 dBu
タイプ	RCA
インピーダンス	約 1 k オーム
最大入力レベル	+21 dBu

ラウドスピーカー出力

タイプ	プロフェッショナル・ロック式コネクター

ロードインピーダンス:

メイン L/R	4 - 8 オーム
モニター / メインモノ	4 - 8 オーム
メインモノ / メインモノ	4 - 8 オーム
ブリッジ	8 - 16 オーム

DSP

コンバーター	24-bit Delta-Sigma, 64/128 - 倍オーバーサンプリング
ダイナミクス D/A	90 dB
サンプルレート	46.875 kHz
ディレイタイム	最大 5 秒
信号伝達時間 (Line 入力 > Line 出力)	約 1.5 ミリ秒

ディスプレイ

タイプ	2 - デジット, 7 段階 LED

出力パワー

RMS @ 1% THD、両方のチャンネルをドライブ:

8 オームチャンネル毎	300 W
4 オームチャンネル毎	600 W

RMS @ 1% THD, ブリッジ・モード:

8 オーム	1200 W

ピークパワー、両方のチャンネルをドライブ:

8 オームチャンネル毎	400 W
4 オームチャンネル毎	800 W

ピークパワー、ブリッジ・モード:

8 オーム	1,600 W

電源部

主電圧

アメリカ合衆国 /カナダ	120 V~, 60 Hz
中国 / 韓国	220 V~, 50/60 Hz
ヨーロッパ / オーストラリア	230 V~, 50 Hz
日本	100 V~, 50 - 60 Hz
ヒューズ 100-120 V~	T 10 A H 250 V
ヒューズ 220-240 V~	T 6.3 A H 250 V

消費電力

消費電力	1,050 W
主電源コネクター	IEC 標準レセプタクル

寸法 / 重量

寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	4.8 x 18.1 x 18.7" 122 x 460 x 476 mm
重量	22.9 lbs / 10.4 kg

JP

PMP1000

マイクロフォン入力

タイプ	XLR, 電気的にバランスの入力回路
Mic E.I.N. (20 Hz - 20 kHz)	
@ 0 オームソース抵抗	-134 dB / 136 dB A-weighted
@ 50 オームソース抵抗	-131.5 dB / 134 dB A-weighted
@ 150 オームソース抵抗	-129 dB / 155 dB A-weighted
周波数レスポンス	< 10 Hz - 200 kHz (-1 dB) < 10 Hz - > 200 kHz (-3 dB)
Gain	+10 dB, +60 dB
最大 入力 レベル	+12 dBu @ +10 dB gain
インピーダンス	約 2.6 k オームバランス / 1.3 k オームアンバランス
Signal-to-noise ratio	109 dB / 112 dB A-weighted (0 dBu In @ +10 dB ゲイン)
Noise (THD + N)	0.002% / 0.0018% A-weighted

MONO LINE 入力

タイプ	¼" TS コネクター, バランス
インピーダンス	約 20 k オーム
最大入力レベル	+21 dBu

イコライザー

ロー	80 Hz / ±15 dB
ミッド	2.5 kHz / ±15 dB
ハイ	12 kHz / ±15 dB

2 TRACK 入力

タイプ	RCA
インピーダンス	約 3.6 k オーム

プリアンプ出力

MAIN	
タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	約 150 オーム, アンバランス
最大出力レベル	+21 dBu

モニター

タイプ	¼" TRS コネクター, アンバランス
インピーダンス	約 150 オーム, アンバランス
最大出力レベル	+21 dBu

ステレオ出力

タイプ	RCA
インピーダンス	約 1 k オーム
最大入力レベル	+21 dBu

ラウドスピーカー出力

タイプ	プロフェッショナル・ロック式コネクター
ロードインピーダンス:	
メイン L/R	4 - 8 オーム
モニター / メインモノ	4 - 8 オーム
メインモノ / メインモノ	4 - 8 オーム
ブリッジ	8 - 16 オーム

DSP

コンバーター	24-bit Delta-Sigma, 64/128 - 倍オーバーサンプリング
ダイナミクス D/A	90 dB
サンプルレート	46.875 kHz
ディレイタイム	最大 5 秒
信号伝達時間 (Line 入力 > Line 出力)	約 1.5 ミリ秒

ディスプレイ

タイプ	2 - デジット, 7 段階 LED

出力パワー

RMS @ 1% THD、両方のチャンネルをドライブ:	
8 オームチャンネル毎	90 W
4 オームチャンネル毎	130 W
RMS @ 1% THD, ブリッジ・モード:	
8 オーム	200 W
ピークパワー、両方のチャンネルをドライブ:	
8 オームチャンネル毎	135 W
4 オームチャンネル毎	250 W
ピークパワー、ブリッジ・モード:	
8 オーム	500 W

JP

電源部

主電圧	
アメリカ合衆国 /カナダ	120 V~, 60 Hz
中国 / 韓国	220 V~, 50/60 Hz
ヨーロッパ / オーストラリア	230 V~, 50 Hz
日本	100 V~, 50 - 60 Hz
ヒューズ 100-120 V~	T 5 A H 250 V
ヒューズ 220-240 V~	T 5 A H 250 V

消費電力

消費電力	500 W
主電源コネクター	IEC 標準レセプタクル

寸法 / 重量

寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)	4.8 x 15.6 x 16.7" 122 x 390 x 425 mm
重量	18.3 lbs / 8.3 kg

We Hear You

behringer